7．自発性・能動性

生活科や総合的な学習では，「子供は，有能な学び手である」という子供観に立つことが大切であると言われています。有能な学び手である子供は，本質的に知的好奇心に富み，身の回りの対象に自らはたらきかけたり，自ら情報をキャッチしたりするなど，常に自発的・能動的だと言えます。

自発性・能動性の発揮

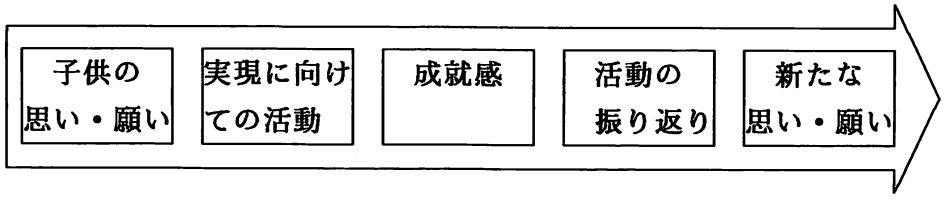
子供の自発的・能動的な学びを考えた時，学習活動が連続・発展していくことを大切にしなくてはならない。連続・発展していくとは，子供から活動に対する思いや願いが次々生まれ，その実現に向けて子供自ら対象にかかわり，活動に取り組み続けていくことである。

学習活動が連続・発展していくためには，

子供自身の中に思いや願いが生まれるようにすること
思いや願いが実現され，成就感を伴う活動が繰り返されること
活動を振り返り，新たな思いや願いが生まれるようにすること

を大切にしなくてはならない。

このような学習活動の中で，自分でよく考え，判断し，活動する子供の姿が見られるのである。



実践から

「昔の遊び」でこま回しに挑戦する子供。ひもの巻き方，投げる強さの加減などを考えながら，繰り返し練習することで，達成感や満足感を味わいます。そして，できるようになったことを振り返って，自分の工夫した意味に気付いたり，「こつ」を体験したりします。さらに，「今度は難しい技に挑戦してみよう」と思いを膨らませ，どんどん自分で活動をつくっていきます。学習活動が連続・発展していくのです。